

## (2) 東北



東北地域では、景気は持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、緩やかな改善傾向にある。

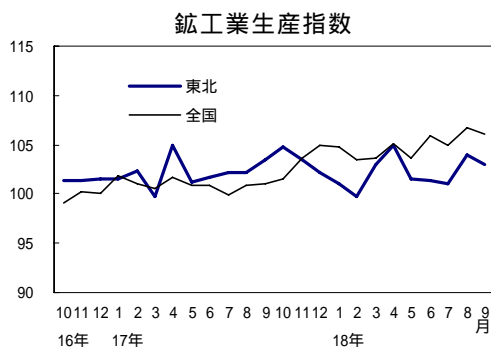
### 前回調査からの主要変更点

	前回（平成 18 年 8 月）	今回（平成 18 年 11 月）	
雇用情勢	依然として厳しい状況だが、改善が続いている	依然として厳しい状況だが、緩やかな改善傾向にある	

### 1. 生産及び企業動向

#### (1) 鉱工業生産は緩やかに増加している。

電子部品・デバイス、海外向け携帯電話用のサーミスタ・バリスタや、車載用と新型ゲーム機向けの水晶振動子が好調に推移したため増加している。食料品・たばこは、冷凍水産食品や生菓子が好調だったため増加している。情報通信機械は、携帯電話がモデルの端境期に当たるため減少している。一般機械は、産業用ロボットが引き続き好調であり、金型の受注も好調であったが、出荷時期が来期以降にずれただけ減少している。電気機械は非標準変圧器や、パソコン用の蓄電池が好調に推移したため増加している。



- (備考) 1. 12年=100、季節調整値。  
2. 平成18年9月の東北は速報値。

#### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

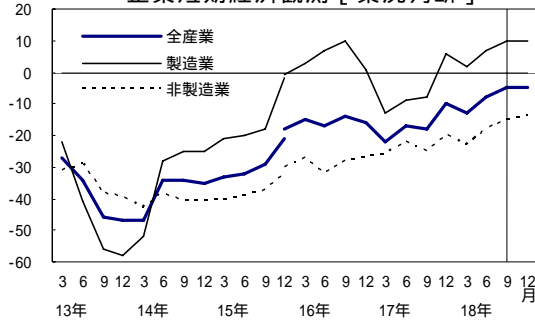
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
電子部品・デバイス	19.3	0.6	2.8	4.4	8.0
食料品・たばこ	12.9	4.5	2.1	2.4	4.5
情報通信機械	11.6	14.2	6.7	5.9	33.7
一般機械	8.6	8.9	4.7	3.1	2.3
電気機械	5.8	0.3	2.7	4.2	16.6
鉱工業	100.0	1.3	0.1	0.1	5.6

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。  
2. 7~9月期は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が拡大している。

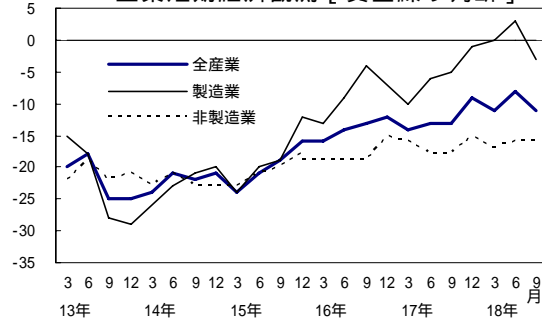
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [ 業況判断 ]



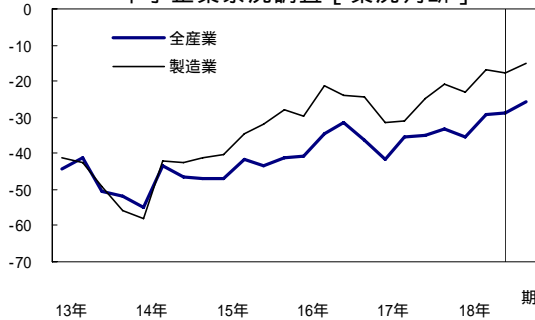
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。18年12月は予測。  
15年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [ 資金繰り判断 ]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
15年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [ 業況判断 ]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。18年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (10月) [ 企業動向関連 (現状) ]

「自動車部品、民生用需要共に好調が続いている。また、為替もやや円安で推移していることから輸出環境は好転している (一般機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 18年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

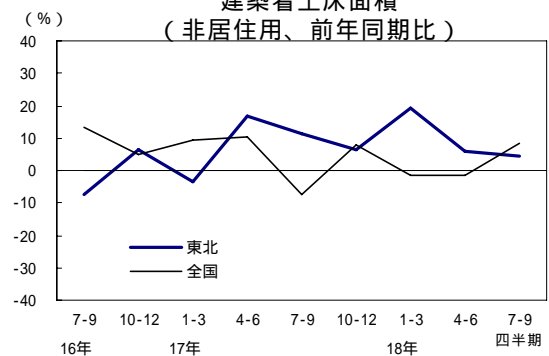
企業短期経済観測調査 [ 設備投資 (9月調査) ]

(前年度比、%)

	17年度実績	18年度計画
全産業	4.5	19.2( 7.1 )
製造業	10.3	31.8( 12.8 )
非製造業	1.7	7.7( 0.3 )

(備考) ( ) は前回 (6月) 調査比修正率。

建築着工床面積 (非居住用、前年同期比)



2. 需要の動向

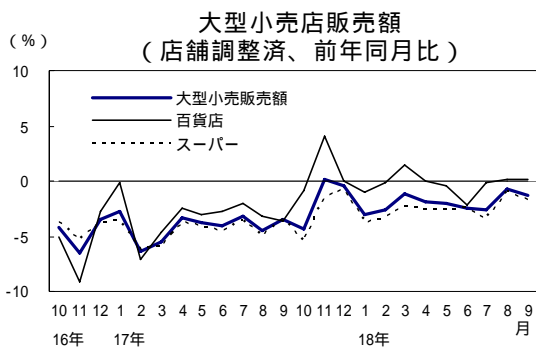
(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、7月は、衣料品においてクリアランスセールが好調で、紳士、婦人ともに好調に推移したものの、飲食料品で中元ギフトが伸び悩んだため前年を下回った。8月は、身の回り品でブランドもののバッグが好調であるとともに、高級時計や美術品などの雑貨も好調に推移したことにより前年を上回った。9月は衣料品において、紳士、婦人ともに好調であり、身の回り品でも、ハンドバッグや靴などに動きがみられたため前年を上回った。なお、日本百貨店協会によると、東北地区の10月の売上高は前年同月比で5.6%減となっている。スーパーは、野菜や酒などに動きがみられたものの、精肉、鮮魚などが低調に推移しているため全体では前年を下回った。

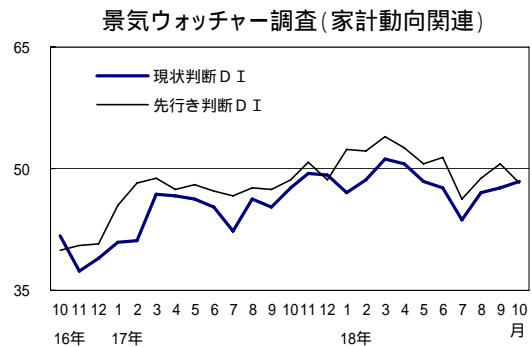
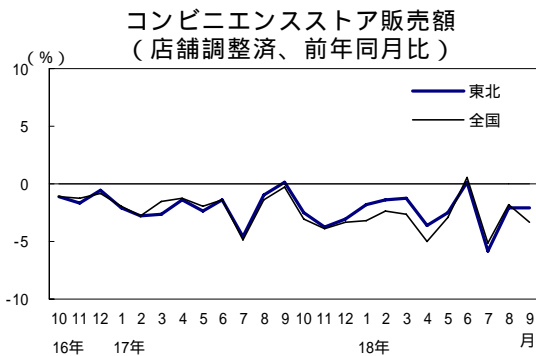
景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

「値段にかかわらず、気に入った物を買う時は決断が早い」、「ついで買い」はなく客単価は上がらないため、良くなっていない(衣料品専門店)など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	17年10-12月	18年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	1.5	2.3	2.1	1.5
百貨店	0.9	0.1	0.9	0.0
スーパー	2.5	3.1	2.5	2.1
コンビニ	3.1	1.5	2.0	3.4
景気ウォッチャー	48.7	48.9	48.9	46.1

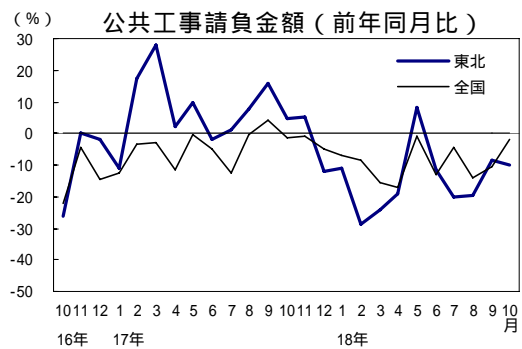
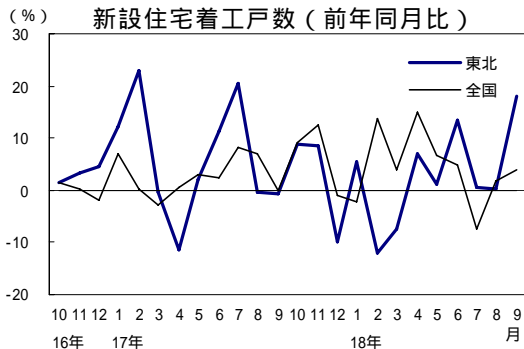
(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。  
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

貸家が前年を上回ったことから、全体でも大幅に増加している。

(3) 公共投資は18年度累計で見ると前年度を下回っている。

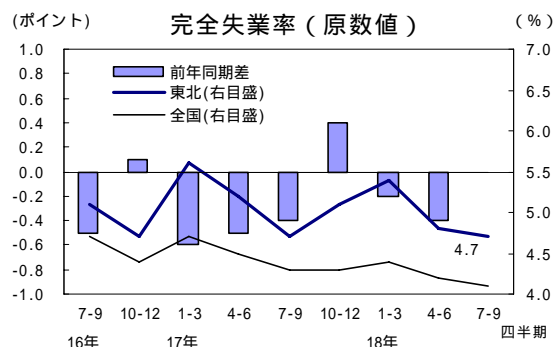
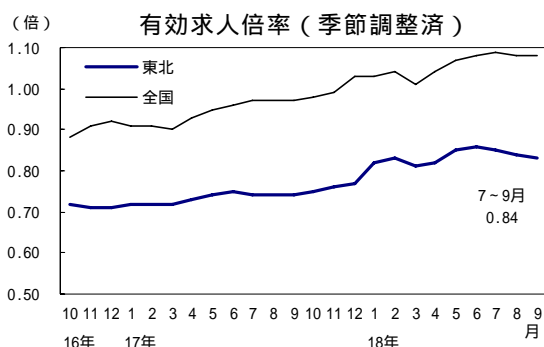


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、緩やかな改善傾向にある。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期と同水準となっている。



景気ウォッチャー調査(10月)[雇用関連(現状)]

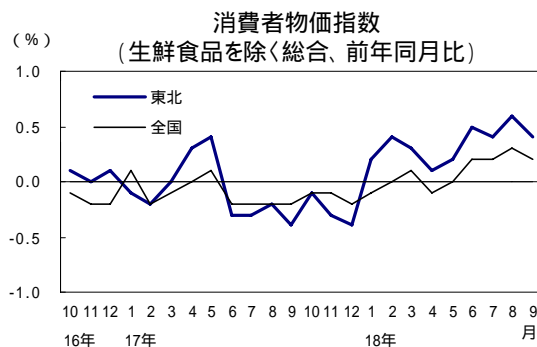
「やや業種に偏りはあるが、幅広く求人が入っている。通信関連からは5人、10人の発注が続き際立っている。その他も総じて人手はひっ迫している(人材派遣会社)」など「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数はおおむね横ばいとなっているものの、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

#### 企業倒産

	(件、億円、%)				
	17年10-12月	18年1-3月	4-6月	7-9月	18年10月
倒産件数	218	225	234	255	78
(前年比)	8.8	3.8	5.3	2.8	15.2
負債総額	734	680	720	810	369
(前年比)	48.9	18.3	24.7	17.6	0.4



景気ウォッチャー調査(10月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・牛タン原料の相場は一時より下がったものの、米国でのBSE発生前と比べると、5割高の値で安定してしまった(食料品製造業)

<先行き>

・ウォームビズの関連商材の提案も、クールビズ同様2年目でインパクトを欠き、この冬のトレンドは基本的に前年と変わらない。歳暮商戦も苦戦する(百貨店)

#### 景気ウォッチャー調査(合計)

